

## 海田高校サッカー部指導指針

海田高校サッカー部部員である前に、海田高校の生徒である。まず、学校生活をしっかりと送ること。サッカーだけするという姿勢でなく、サッカーも勉強も頑張れる＝『文武両道』ことを活動の根幹とする。各自の目標を高く持ち、高い知性と道徳性を持ち果敢に挑戦していく者の集団であることを目指す。

日本に限らず、欧州・南米等のプロの指導者は、「世界で成功する選手は、技術面だけでなく、公私ともに範となる行動がとれる」そのためには、「高校年代（ユース年代）において、“しつけ（マナー）”を含む資質向上の指導が大変重要である」と説いている。

サッカー選手としての資質向上は、サッカーだけで完成されるものではない。集団生活の中で自律的な生活習慣を確立し、全てのこと（特に勉強も部活動も頑張れる＝『文武両道』）に前向きに取り組む、自分自身を鍛える中で築き上げられる。また、チームの強化を図るには、戦術・技術・体力の強化の前に、チームを構成する選手の資質を向上させ、同じ目標に向かい果敢に挑戦していく環境を作ることが大切である。

本校サッカー部においても学校生活・サッカー部の活動の中で、自律した行動、勉強と部活動との両立、社会で通用するマナー習得などの指導を通して、資質向上を図っていきたい。

その活動を通して、“全国の舞台上で闘うことができるチームを目指す！”

### ◇◇ サッカー選手として習得すべき資質7項目 ◇◇

- (1) 「あいさつ」ができる。
- (2) 時間厳守
- (3) 集中力
- (4) 社会で通用するマナーを身につける（態度・言葉遣い）
- (5) 状況判断
- (6) 報告・連絡・相談
- (7) グラウンドで100%力を出す

#### **(1) 「あいさつ」について** “大きな声で、すがすがしいあいさつをしよう！”

・「あいさつ」をすることは、コミュニケーションの第一歩である。「いつでも、どこでも、誰に対しても、自分から」すがすがしい「あいさつ」を節度ある姿勢ではっきりとできること。

#### **(2) 時間厳守** 『10分前行動開始、5分前集合完了』

・練習時間は与えられるものでなく、自分たちで確保するものである。常に練習時間を確保するためには、部員全員が最大限の努力をすること。

部員全員が定刻に揃って練習を始める。この当たり前のことが、チームワーク作りの第1歩である。

#### **(3) 集中力** “やらされる練習でなく、やる練習”

・強く、うまくなるのは単に練習時間の長さではない。サッカーに取り組む姿勢・意識と集中力である。強化のために練習時間を長くするのではなく、練習の開始・集合等の時間を厳守し、集中力を高めることが大切である。

#### **(4) 社会で通用するマナーを身につける（態度・言葉遣い）**

- ・“高校年代（ユース年代）で、社会に通用するマナーを身につけよう！”

Jリーグの新人研修で、「読む・聞く・書く・話す」という社会人として必要な最低限のマナーについて強く指導されている。この研修は、高卒でプロ選手となり大人社会に入らないまま高収入を得て、自分を見失いサッカー界から消えていく選手が増えたため、関係者が危機感を持ち実施するようになった。また、「ユース年代の活動の中で、社会人としての最低限のマナーを身につけてほしい」という要望が、プロの関係者からでている。

特に「聞く・話す」については、本校サッカー部の活動の中でも指導の必要性を感じる。

##### **■「聞く」について**

話をしている人を見る。顔を上げているだけでなく目を見て聞く態度を身につける。

「何のために、どういう目的で」など意図をはっきりと理解し、取り組むこと。

やらされる練習では、サッカーに必要な創造性は身につかない。短時間集中で成果を上げるためには考えながらサッカーをすることが大切である。

##### **■「話す」について**

その場の状況を判断し、自分の考え・思いを確実に伝えられること。そのためには、常識的な言葉遣い、礼儀正しさ、聞き手の気持ちへも細やかな心遣いができることが必要である。

#### **(5) 状況判断**

- ・サッカーの練習だけでなく、日頃の行動においても周囲に気を配り予測して行動することを心がけること。

#### **(6) 報告・連絡・相談**

“事後報告でなく、事前の相談であること。”

- ・報告・連絡・相談は、信頼関係を築き上げるためには必要なことである。

#### **(7) グラウンドで100%力を出す**

“人間は環境で育つ”

- ・全国高校サッカー選手権大会において、2度の優勝を果たした全国屈指の強豪校にブラジル人コーチが、来日して最初にしたことは、サッカーに取り組む心構えから説いた。——「グラウンドに入ったら集中力を高め、やる気になること。試合の翌日・雨・泥沼・風・雪等の諸条件に関係なくサッカーに集中すること。」——
- ・自分の力を出し切るには、やらされている練習ではできない。積極的にサッカーに取り組む向上心を持つことが大切である。一流選手は、練習一つ一つに自己の課題を持ち常に向上心を持って取り組んでいる。この姿勢を忘れない選手の集団が強豪チームである。

# 海田高校サッカー部チーム・コンセプト

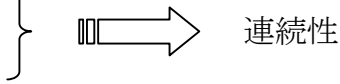
海田高校サッカー部を、文武両道の校風の中で全国を狙える名実とも強豪チームにするため、チーム・コンセプトを明確にし、選手・指導者・保護者等全ての関係者の力及び思いを結集し、目標達成のため最大限の努力をする。

目標達成のためには、ただ「うまい選手」の集まりでなく、海高サッカー部への帰属意識を持ち（ **We are not alone !!** ）、自覚と責任ある行動をとれることが大切である。

## チーム・コンセプト

- (1) 海田高校サッカー部部員としての自覚と誇りを持つ。
- (2) サッカー選手として、何をすべきかいつも考えて、自己管理ができる選手であること。（ **physical, health, mental etc** あらゆる面で・・・）
- (3) コミュニケーションがとれる人間であること。  
いつでも、どこでも、誰に対しても、自分から『あいさつ』ができる。  
**On the pitch / Off the pitch**
- (4) チームへの帰属意識を持てる選手であること。  
（ **We are not alone !!** ）

## 8 Key Words of Kaita High School Soccer Team

1. コンパクト  
チャレンジ & カバー の関係を常に作る。
2. 積極的にボールを奪う  
プレッシング、ボールを中心としたディフェンス。
3. ファーストボールへのアタック  
コミュニケーション、攻撃時におけるポジショニング。
4. ダイレクトプレー  
ゴールを目指す。ゴールから逆算した優先順位。
5. ボールの移動中に action  
攻守とも。
6. スペースを創り、活用する  
フリーになるための動き  
スペースを創る動き  
パスコースを創る動き }  連続性
7. アラートな状態（ **Be Alert** ）
8. 戦う姿勢（ **Fighting Spirit** ）